

公共交通に関する計画

【骨格公共交通網】 「2空港・3港湾・1新幹線・鉄道3線・地下鉄3線」

- 「年間を通じて誰もが安全、安心に暮らせる交通環境」の実現を目指します。
- 「環境に優しく持続可能な都市を支える交通環境」の実現を目指します。
- これらの骨格公共交通網の形成は、既存公共交通を活用することを基本としつつ、必要に応じて新たな軌道やバスにより機能強化することで、実現していきます。

凡	例
	都市圏コア
	広域生活拠点
	生活拠点
	主な産業流通拠点
	主な観光・レジャー拠点
	広域公共交通軸 (空港・港湾・新幹線・都市間鉄道/バス)
	圏域内公共交通軸(軌道系/バス)



<都市圏コア・広域生活拠点>

複数の公共交通の選択が可能であり、バリアフリー化などの乗り換え環境の改善を通じて、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

<生活拠点>

公共交通の利便性を高め、徒歩や公共交通で基本的な都市機能を利用できるまちづくりを目指します。なお、鉄道・地下鉄がアクセスしていない生活拠点については、軌道整備やバスアクセスの改善やバス路線維持などを通じて、公共交通利用環境の改善を取り組みます。

軌道やバスによる機能向上

- 各地域の生活拠点間を結ぶ交流・連携軸のうち、骨格公共交通網が脆弱な月寒(福住)～清田間、麻生～石狩間については、軌道やバスによる連携強化を検討し、「年間を通じて誰もが安全、安心に暮らせる交通環境」「環境に優しく持続可能な都市を支える交通環境」の実現を目指します。

公共交通サービスの維持に努めます。

◆公共交通の機能維持・強化

上記以外の生活拠点間を結ぶ交流・連携軸(長沼方面、南幌方面、定山溪方面)を確保するため、バス路線の維持に努めます。この他、拠点とその周辺地域を結ぶバス路線については、地域の状況を勘案した公共交通サービスのあり方を検討した上で、必要なサービスを提供します。

◆公共交通利用促進に向けた各種取り組み

今のままの車の使い方では、自動車分担率の上昇が予測されます。環境や健康のことを考えて、市民が自らの自動車の使い方を考え直す必要があります。様々な啓発活動を通じて利用者の意識改革を促すと共に、自動車からの受け皿となる公共交通のサービス向上(バリアフリー化、案内誘導の充実、時刻表・経路情報提供等)を図ります。

バリアフリー化：高齢者、障がい者、妊産婦などが、社会生活をしていく上で障害(バリア)となるものを除去(フリー)すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁などすべての障壁を除去するという考え方である。たとえば、バスや鉄道の車両、歩道等において、段差、階段、出入口、通路などが配慮の対象となる。